

2022年度 学校評価票(総括)

I. めざす学校像(ミッションステートメント「建学の精神」)(長期的目標)

本学の建学の精神は、キリスト教精神である「自由と愛」です。自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とは一人ひとりの人格と主体性を尊重すること。「愛」とは互いに仕え合いながら他者と共に生きることです。この自由と愛の精神は、単にキリスト教の立場だけでなく、全ての人間が一致する普遍的な理念であり、人類共通の目標です。人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想を目指してチャレンジしつづけていくこと、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神であり、「世界の市民」への道なのです。

II. 最重点目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1. 建学の精神を日常にする	本校のキリスト教精神に基づく教育方針が生徒に十分理解されるよう努める	教員自ら毎日の礼拝を大切に、その姿勢を生徒に示していく	働き方改革の下で教員の心身の健康に留意しながら現場の意見を積極的に吸い上げる	△	まだ十分ではないが仕事量軽減に取り組んだ
2. 大学合格実績の向上	難関国立大学・難関私学の合格者増に努める	共通テスト・難関大学対策講習を実施する。また、S選抜コースの充実を図る	難関国立現役合格率を前年度比増を目指す。難関私大は5割超を指標とし、6割を目指す	○	東大1名合格、京都大学前年度比1名増は評価できる
3. いのちの教育のさらなる推進	生命の尊さ、かけがえのなさと共に、人知を超える「いのち」の神秘を知る心を育てる	いのちに関連させたプログラムを実行する	生徒・保護者・教職員自身の実感を伴うものとなるよう学校評価アンケートでの評価を一つの指標とする	△	コロナ禍で講演会や行事が思うようにできなかった

III. 中期的目標(3年が目安)

今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題	
1. キリスト教精神をたいせつにする	①朝の礼拝を大切に ②キリスト教精神に基づく行事を大切に	①朝の礼拝の静粛を保つ ②生徒や教職員の積極的参加	①○ ②◎	①担任の協力が大きい ②ツリ一点灯式で生徒自ら募金活動を行ったり、中学クリスマス礼拝が3学年一斉に川口基督教会で行われたりして充実した	
2. 授業をたいせつにする	①ベル着の徹底 ②自習課題と振り替え授業の充実 ③授業見学の発展	①相互で確認 ②連絡方法の再検討 ③担当教員の打合せの充実	①○ ②○ ③△	③見学カード未提出の教員が多い。	
3. 生活習慣の確立	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止 ④提出物の徹底 ⑤インターネット上のトラブル防止 ⑥携帯電話の使用マナーの徹底	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③担任指導の強化 ④反省文の回収 ⑤⑥問題件数の減少	①△ ②○ ③○ ④○ ⑤○ ⑥○	①自治会主導であった ⑤⑥補導案件は少ないながらも依然としてSNS関係の問題は尽きない	
4. 活発な自治会活動の推進	①自主規律の確立 ②自治活動の活性化 ③学校行事の発展・教員の役割分担	①執行部、各委員会活動の年間計画作成 ②活動目標、年間計画、総括 ③各行事の実行委員の獲得と意識化・役割の明確化 事前からの教員業務分担を実施。	①○ ②○ ③○	①②年間を通して自治会教員と執行部生徒が意見交換を積極的に行い、有意義な自主規律HRを目指すことができた ③コロナ禍における制限はあるものの、3年ぶりに体育祭を実施でき、また文化祭では保護者(家族)の来場を可とし、多くの生徒が高い意識を持って、積極的に活動できた	
5. 進路について	①大学進学に関する自発的な情報収集力や行動力の養成 ②難関大学に合格するための学習効果や受験戦略の育成	①進路HRやオープンキャンパスにおける生徒自身による取り組み ②希望制模試の受験や推薦入試への積極的な挑戦	①教員による年間計画と生徒による実施レポートの作成 ②定期的な案内と教員対象の進路講演会への参加	①○ ②○	①クラスルームを活用して情報共有・情報発信ができた。 ②生徒への還元を目的として積極的に参加できた。
6. 中学の課題	①大学進学を見据えた学力向上 ②生きる力をはぐむ行事の精選・発展 ③受験生の増加 ④生徒支援システムの構築	①アンケートや学力推移テスト ②行事検討会議の充実 ③受験生の増加 ④システムがいかに構築されたか	①○ ②○ ③○ ④△	①放課後の取り組みに関しては従来のものを発展、さらに新たにロボット講座を開講した ②中3の勉強強宿をキャリアキャンパスに発展 ③ライナカウンターの作成、説明会等で生徒プレゼンに取り組んだ ④連携の工夫が必要	
7. 入試広報の充実	建学の精神を広く広報する	①国公立合格者数、一貫コースの大学合格実績のアピールを行う	②大阪北部箕面、尼崎・西宮、河内長野地域への広報を拡充する	①○ ②△	①についてはアピールが出来、受験者の増加に役立った ②河内長野での説明会がこの地区や羽曳野地域の受験者数増加につながったが、説明会を実施しなかった豊中地域には効果がなかった
8. いのちの教育の推進	いのちについて知識を深める	いのちに関連させたプログラムを実行する	年末の学校評価アンケートでのフィードバックを目安とする	△	コロナの影響もあり保健の授業でしか行えなかった
9. キャンパスの整備	①キャンパスの整備につとめる	①自習スペースのさらなる充実 ②その他施設の充実	①教員の評価 ②生徒保護者の満足度などが得られるように努める	△	教室のプロジェクターの更新は実施したが、クラス数の関係で自習スペースを増やすことができなかった

IV各学年別目標(中学職会・担任会)

今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
(1)基本的な生活習慣の確立 (2)学年全体の学力向上 (3)問題行動へのチームでの対応	(1)遅刻・欠席をする者に対する声かけをし、規則正しい生活を身につけさせる。欠席が続く生徒には早い段階で電話連絡・家庭訪問をする (2)中上位生徒はより意欲を持って自主的な学習に取り組ませる。学力不振の生徒は、提出物の徹底、基本・基礎事項の徹底を行う (3)問題行動に対し、担任だけ、教科担当だけで対応するのではなく、学年としてチームで対応する。	(1)怠業による遅刻数・欠席日数を例年より減少させる (2)課題提出率の向上と模擬試験の成績向上 (3)大小関わらず、それぞれのケースに対する実際の対応	(1)○ (2)△ (3)○	(2)学力不振の生徒が非常に多く、少し足を引っ張られてしまった感があった。中上位の生徒を伸ばす指導に関しては、まだまだ、これから考えていく必要がある。

中学2年	(1)生活習慣の確立 (2)学年全体の学力向上	(1)遅刻・欠席を減らし、規則正しい生活を身につけさせる (2)中上位生徒はより意欲を持って自主的な学習に取り組ませる。学力不振の生徒は、提出物の徹底、基本・基礎事項の徹底	(1)遅刻数・欠席日数の減少 (2)模擬試験、定期考査での成績向上	(1)○ (2)△	(2)学力不振の生徒が多く、提出物の徹底が不十分であった。来年度はさらに強化していきたい
中学3年	(1)学習習慣の確立 (2)進路選択に向けた意識作り	(1)提出物、定期試験前後の取り組み、模試 (2)大学見学、先輩による講演会等	(1)日々の提出物や定期試験前後の取り組みを確立することにより、自学自習ができる生徒を育て、それが結果につながるという成功体験をさせる (2)夏の勉強合宿時の大学訪問、学部学科調べを通じ、自分の夢をできる限り明確な形にする	(1)△ (2)○	(1)高校を前に、全体的に勉学に対する意識が高まったが、差が激しく、意識の低い者に引けられる部分もあった (2)夏の勉強合宿をキャリアキャンプと題して内容を刷新して行い、その事前学習、大学訪問、企業訪問、ディスカッションを通して、進路に関する意識を高めることができた
高校1年	(1)学習習慣の確立 (2)生活習慣の確立 (3)HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	(1)学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育み、生徒の夢や目標の達成に向けて学年全体で取り組む。授業やHR・面談等において、適切な学習方法・内容・量について一年間継続的に指導する (2)自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。タブレット・スマホ・携帯の適切な扱い方を習得させる指導を強化する (3)進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援計画を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う	(1)模試成績の向上 (2)朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なスマホ・携帯の扱い方を習得させる。 (3)内容の充実を図る	(1)○ (2)○ (3)◎	(1)入学時に受けたスタディサポートの結果は、例年よりも若干低めでスタートしたが、7月11月の進研模試ではそれほど大きな変化を見ることが出来なかった。次年度はもう少しアプローチを増やして上昇させたい (2)遅刻指導は順調だったが、コロナ禍の影響がスマホに依存する傾向の生徒がまだ目立つ。適切な距離を取ることができるよう今度も指導していきたい (3)進路指導は1年間を通じて「学びのガイダンス」などの新しい取り組みを増やしたり、学部学科調べも内容としては充実したものになったと感じる。精神的なサポートの必要な生徒は依然多くいるので、今後もSOSシートを活用するなど丁寧に指導していきたい
高校2年	(1)学習習慣の確立 (2)生活習慣の確立 (3)HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	(1)学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育み、学力の向上を図り、生徒の夢や目標の達成に向けて学年全体で取り組む。 (2)自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。タブレット・スマホの適切な扱い方を習得させる指導を強化する。 (3)進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う。	(1)模試成績の向上。 (2)朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なスマホ・携帯の扱い方を習得させる。 (3)内容の充実を図る。	(1)○ (2)○ (3)○	(1)各コースの特色を生かし、受験学年への準備をすることができた。 (2)遅刻数は一定あり、課題が残る。適切なスマホ・タブレットの扱い方については指導を継続しているが、次年度どのような方針を元に指導していくかは要検討。 (3)必要な情報発信を行い、各自の進路実現に向けた準備を行うことができた。より良い支援のあり方については、継続的に検討していきたい。
高校3年	(1)進路目標の実現 (2)生活習慣の確立 (3)HR活動の充実	(1)それぞれの進路目標の実現に必要な学力をつけ、生徒の目標達成に向けて学年全体で取り組む (2)自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。スマホ・携帯の適切な扱い方を習得させる指導を強化する。生活習慣の維持に努め(1)の目標達成に繋げる (3)進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する	(1)(3)生徒の第一志望合格 (2)朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なスマホの扱い方を習得させる	(1)◎ (2)○ (3)◎	(1)(3)生徒の第一志望への進路獲得へ向けて必要な授業のほかに豊富な講習や情報発信をしてきた。そのことで学力の向上や主体的な進路選択に繋がった。また進路指導も担任団の丁寧な面談や助言により粘り強く取り組むことができた (2)遅刻・欠席についてはコロナ禍以降遅れたり休んだりすることへのハードルが下がった印象があり、劇的に減少させるとまでは至らなかった。その中でも大きな崩れなく落ち着いた学年運営と安定した生活指導は実現できた

V. 各コース目標(コース会議)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
一貫コース進学	大学合格実績の向上	六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂	模擬試験の結果。最終的な大学合格実績	△	高校3年生では例年に比べて産近甲龍や関関同立の合格者は増加した。一方で共通テストで得点が伸びず、国公立大学への出願が思うようにできなかった生徒が多かった
一貫コース選抜	大学合格実績の向上	六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂	模擬試験の結果。最終的な大学合格実績	○	高校3年生は共通テストの得点が自己最高点を出す生徒が続出した。国公立大学の推薦入試では11人が出願し6人合格をさせることができた
文理コース文理	①国公立大学、難関私立大学の進学実績向上 ②入試に活用できる英語検定試験の学力アップ ③クラブ活動への積極的参加	①普段の授業、模試の活用等 ②普段の授業、朝学習等 ③各クラブ顧問と担任との連携等	①国公立25% 難関私立大50% (文理全体に対する延べ人数合格率) ②英検2級以上の取得率の上昇 ③年度初めと年度末のクラブ加入率の差	①○ ②○	①国公立26.9%となった ②モノゴサなどによって英検の合格者が増加した
文理コースアスリート	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	①○ ②○	①水泳全国入賞、ハンド全国大会出場、バレー近畿大会出場、サッカープリンスリーグ2部昇格 ②水泳山口哩駐世界ジュニア優勝、ハンド中井翔太郎日韓中ジュニア代表選出

英数コース	国公立大学を含む、第一志望大学、および志望学部への合格	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策 & 国公立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果 【高3】①大学入学共通テスト結果 ②第一志望大学への合格率	①△ ②△	神戸大学などにも多く合格してくれた 2割弱の生徒が私立大学志望となる
S英数コース	難関国公立大学を含む、第一志望大学、および志望学部への合格	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、より高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策 & 難関国公立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果 【高3】①大学入学共通テスト結果 ②第一志望大学への合格率	①△ ②△	文系は京都大学などにも多く合格してくれた 理系は第一志望での合格率が低くなってしまった
国際コースクラスA	①国際社会で通用する英語での論理構成力の基礎作り ②大学入試に左右されない国際コース独自の評価基準の確立と大学入試にも強い英語の指導方針の策定 ③特色あるカリキュラムの改良・発展	①留学の事前・事後指導の充実 ②英検の全員受験 ③高1高2における留学事前・事後教育カリキュラムや高3の外部講師を招聘した特別カリキュラムの検証と改良	①外部テスト(英検・GTEC) ②受験後の生徒へのアンケートと英語教科内での評価 ③受講後の生徒へのアンケート	①○ ②△ ③○	①授業導入型のハーバード大学生等とのオンライン授業により、生徒たちの発信意欲が格段に伸びた ②コミュニケーションアプローチを大幅に取り入れた結果、大学入試のみにとらわれない指導は行えたが、独自の評価基準の策定には至らなかった ③①での述べたオンライン授業が昨年度より講師1人当たりの人数を減らすなどを行うことで、より密度の濃い指導を行うことができた
国際コースクラスB	①国際社会で通用する英語力での論理構成力の基礎作り ②大学入試に左右されない国際コース独自の評価基準の確立と大学入試にも強い英語の指導方針の策定 ③特色あるカリキュラムの改良・発展	①留学の事前・事後指導の充実 ②英検の全員受験 ③高1高2における留学事前・事後教育カリキュラムや高3の外部講師を招聘した特別カリキュラムの検証と改良	①外部テスト(英検・GTEC) ②受験後の生徒へのアンケートと英語教科内での評価 ③受講後の生徒へのアンケート	①○ ②△ ③○	①授業導入型のハーバード大学生等とのオンライン授業により、生徒たちの発信意欲が格段に伸びた ②コミュニケーションアプローチを大幅に取り入れた結果、大学入試のみにとらわれない指導は行えたが、独自の評価基準の策定には至らなかった ③①での述べたオンライン授業が昨年度より講師1人当たりの人数を減らすなどを行うことで、より密度の濃い指導を行うことができた

VI. 各部の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
教務部	キャンパスプランの安定した運用	ICT委員会等と連携し安定した運用を目指す	成績処理および高3調査書の発行	△	調査書の発行に関して複数ミスが見られた。成績通知表については配信形式から紙媒体に戻した
生活指導部	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③朝礼遅刻を含む遅刻指導 ④①②③とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③朝礼遅刻数減少	①△ ②○ ③○	①自治会主導であった ②③今後も継続した呼びかけは必要
自治会指導部	①自主規律の確立 ②自治活動の活性化 ③学校行事の発展・教員の役割分担 ④コロナウイルスの影響による学校行事の形態変更や内容変更の検討	①自主規律HRの年間計画作成 ②HR委員会、評議委員会、文体連の役割分担、実務遂行への指導。その他自主活動の活性化 ③文化祭委員会の活動計画への指導。各行事の目標を明確化。事前からの教員業務分担を実施	①執行部、各委員会活動の年間計画作成 ②活動目標、年間計画、総括 ③各行事の実行委員の獲得と意識化・役割の明確化	①○ ②○ ③○ ④○	①2年間を通して自治会教員と執行部生徒が意見交換を積極的に行い、有意義な自主規律HRを目指すことができた ③④コロナ禍における制限はあるものの、3年ぶりに体育祭を実施でき、また文化祭では保護者(家族)の来場を可とし、多くの生徒が高い意識を持って、積極的に活動できた
進路指導部	①生徒・教員への進路情報の適切な提供 ②進路指導室の有効活用 ③三学年を縦断した進路情報共有	①進路関係の情報を整理して適切に配布・配信 ②担任による進路面談利用や面接練習の実施 ③進路HRの実施内容の開示	①データ化を推進して分類・保存 ②誰もが利用しやすい環境整備 ③聞き取りや報告の習慣化	①○ ②○ ③△	①格納場所を全体周知しており、使いやすい心をかけた ②担任が常に進路指導室で面談や質問対応で利用していた ③担任団からのヒアリングを定期的に行うことで問題点の把握がしやすかった

VII. 各委員会の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国際教育委員会	①コロナウイルスの影響による留学内容の変更等に対応(国際コース) ②コース独自の取り組み(国際コース) ③渡米留学希望生徒の一定数確保(EP) ④入学内定試験の実施(中国人留学生) ⑤新たな目標の模索(SBS)	①コロナウイルスの影響による留学内容の変更等に対応(国際コース) ②コース独自の取り組み(国際コース) ③渡米留学希望生徒の一定数確保(EP) ④入学内定試験の実施(中国人留学生) ⑤新たな目標の模索(SBS)	①行き先をカナダに据えての実施を検討 ②平常授業に特色のある取り組みを取り入れる ③10名前後 ④夏休み終わりまでには国内外いずれかで実施 ⑤発展途上国での学校建設、または国内の貧困層に対する支援	①○ ②○ ③× ④○ ⑤○	①従来の教育委員会のプログラムとは異なる内容ではあったが、バンクーバーでの実施ができた ②高1にて授業導入型プログラムを実施 ③受験者は3名 ④今回は初めて本校で実施した ⑤こども食堂支援などの取り組みがあった
ICT委員会	快適なIT環境の整備 ICT教育の推進	①ネットワーク・IT機器の保守 ②キャンパスプランの運用 ③タブレット活用法に関する研究	①無線LAN環境、BYODを含め、適切な保守を行う。APの追加も行いたい ②観点別評価も含め、キャンパスプランの運用方法の把握・模索を行う ③タブレット導入に伴い、活用方法の研究等を行い、情報共有の場を設ける	①△ ②△ ③×	①AccessPointの追加には至らなかった ②観点別評価についての運用方法の情報共有がなされなかった ③できていない
入試広報委員会	建学の精神を中心とした広報活動に努める	大阪北部箕面、尼崎・西宮、河内長野「地域」への広報活動	説明会などの広報活動において入試広報委員中心に全教員が協力する	△	外部説明会への出席が一部の先生に偏り、不平等感を生んだ
いのちの教育委員会	①保健指導に関して生徒による保健活動を活発にする ②いのちの教育に関して「いのち」の尊厳や厳かに触れ、またその神秘を体験的に感じる機会をつくる	①行事での救護活動・保護犬活動・各種ポスター作成活動 ②AED講習・いのちの日・響プロジェクト・ボランティア活動・中3カフェテリアの取り組み	生徒保健委員会の実施内容 ・行事ごとの救護係等 ・保護犬活動 ・熱中症・感染症ポスター作成(中)	①○ ②○	①ポスター作成は積極的に行えた ②AED講習はシュミレーションで実際にイメージして行えた
人権教育委員会	人権教育に関して社会に存在する様々な人権問題に関心をもち、理解を深める	人権HR、映画鑑賞会、啓発活動などの取り組み	各学年での人権教育の生徒からの感想文、教員からのフィードバック	○	木曜7限を利用して現代の部落差別の講演会を行い、教員にも学びの機会となった
宗教教育委員会	宗教教育に関して礼拝や祈り、各種行事を通して自他の尊厳を大切にすることを養う	礼拝・行事でのマナー向上	①礼拝・行事・講演会等の充実 ②PISTISの紙面充実	①○ ②○	①宗教講演会(岩淵まこと氏)が生徒にも教員にも深い感銘を与えた ②内容が充実したものとなった

Ⅷ. その他委員会の目標(1)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
生活指導部(生徒支援)	支援制度の確立・全教員への理解と認識の強化	①生徒支援理解を目指した積極的な事例研究や研修・情報共有 ②合理的配慮の実施と目標達成に向けた指導 ③自宅学習支援生徒への指導・対応	支援制度や合理的配慮に対する理解・認知 各支援生徒の目標達成具合	①○ ②○ ③○	生徒支援への理解をさらに深めていくことと、今後は積極的な研修が必要である
危機管理委員会	①全構成員の危機管理意識の強化 ②防災訓練等のさらなる発展	①不審者一時対応の発展 ②避難訓練の発展	①②訓練が充実したものになったか	○	3年ぶり生徒全員がグラウンドに避難する形態で実施できた。比較的静かに避難できた点も評価できる
修学旅行委員会	①一貫コースイギリス修学旅行の代替地の確認 ②石垣島修学旅行の代替地	①②との委員会で検討し、業者に依頼	2022年度の修学旅行についても新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、慎重に判断したい	○	イギリスは7月に実施はできなかったが、12月に実施し生徒達の満足度も高かった。北海道、沖縄とも好評であった
カリキュラム委員会	新カリキュラムについてより理解を深める	教科中心にスムーズな移行を目指す。	教科会議での意見交換等	○	特に問題はなかったが、移行期により国際B帰国組の対応が必要となった
アスリート委員会	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備、選考会への派遣	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	①○ ②○	①水泳全国入賞、ハンド全国大会出場、バレー近畿大会出場、サッカープリンスリーグ2部昇格 ②水泳山口哩駆世界ジュニア優勝、ハンド中井翔太郎日韓中ジュニア代表選出
予算委員会	①経費削減にさらに努める ②予算の適正配分と適正執行	予算委員会での議論を深める	委員会での振り返りをしていないにおこなう	○	適正に執行できた
入試委員会		高校入試ガイドラインの見直し	1学期中に結論をだす	○	特に問題なし
補導調整委員会	①補導案件の未然防止 ②適正な補導措置の実施	①日常および特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ ②生徒の事情、学年間・案件による差異の出来ないよう慎重な議論	①補導案件の減少 ②措置生徒の更正	①○ ②○	適正な運営ができた
M1会議	桃山学院中高の将来像を考える	2019年度に開始したM1会議は昨年度で役割を終え解散となった。今後に向けては校長の判断となる	2019年度に開始したM1会議は昨年度で役割を終え解散となった。今後に向けては校長の判断となる	○	M1会議のあと新コース設置委員会を置き、新コース設置について実質的な話し合いができた

Ⅷ. 各教科の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国語科	生徒の表現・思考力を高める教科指導力の向上	①指導法・情報・資料の共有 ②漢字検定 ③小論文模試・小論文講座 ④ICT活用やアクティブラーニングも含めた新たな授業展開の共有	①新課程・新入試への対応。教員間の情報共有による安定した教育環境を整える ②小論文を教科を越えての学校としての取り組みにしてい	①△ ②○ ③○ ④△	①個々に行い情報を交換する程度にとどまった ②今年度の受験率も合格率も高かった ③授業の中にも少し取り組むなどした。また、高2ではニュース検定に取り組み、社会への関心を持つ契機となる取り組みができた。国語科で対応すべきかは検討が必要 ④個々の授業で少しずつ取り入れているにとどまっている
地歴公民科	生徒の学力実態・目標に応じた指導力の向上	①新過程・入試改革への対応検討 ②デジタル教材・データの蓄積・共有 ③教科指導力向上	①今後の入試制度・新過程に応じた授業内容の充実 ②電子黒板で活用できる教材の蓄積・入試問題データベースの整備 ③研修・セミナー等への参加促進、授業事例の共有	①○ ②○ ③○	①新カリキュラムへの対応のため、新規教材の検討や他校情報交換を行った。大学入学共通テストの試作問題の検討も行った ②各科目ごとに教材共有をすすめた ③研修・セミナー等の案内を行うとともに、とくに新課程科目である「歴史総合」「地理総合」の授業見学を促した
数学科	教科指導力の向上	①新課程、S選抜コースへの対応検討 ②大学入試共通テストへの対応 ③数学オリンピック、数学甲子園への指導 ④教員同士による授業見学、指導法の研究会	①新課程シラバスの確定。コースによる進度の差をどう埋めるか、より良い方向性を決める ②研究会への参加と情報の共有、共通テストの結果 ③数学オリンピック、数学甲子園での予選成績の結果 ④授業へつなげることができたか	①△ ②○ ③○ ④△	①入試動向がわからない部分があり、統計をどう扱うかを決め切れていない。来年度に引き続きの課題になる ②個々に研究会に参加した ③高校で22名、中学で9名が参加。中学は初めての挑戦。ともに予選突破はできず ④ここに行き、全体として研究することはできなかった
理科	生徒の学力・表現力の向上を目標とした指導力の向上 ICT機器の授業への活用	①各種自然科学系オリンピックへの対応 ②新課程・入試改革への対応検討 ③高3講習を全員で担当 ④ICT機器を用いた授業を研究する	①各種自然科学系オリンピックでの結果 ②カリキュラムの検討 ③共通テストの結果 ④授業見学や、そのあとの反省会の充実	①○ ②× ③○ ④×	①科学の甲子園大阪3位 ②カリキュラムの検討はできていない ③共通テストの結果は、特に問題はなかった ④反省会を実施できなかった。
英語科	「大学進学実績の向上」へ向けた教科指導力の確立	・本校の最重点目標の1つ「大学進学実績向上」を踏まえた指導法の確立 ・英語に関する各種の検定試験(対策・検討など)への対応 ・大学入試への対応	①「大学進学実績向上」という目標の達成へ向けた活動ができていないか ②学校が掲げる目標達成へ向けた授業・取り組み面におけるチャレンジ ③大学入試の情報共有・対応	①○ ②○ ③△	大学入試の変化に対応する情報共有や対応が不十分である。個々の経験知を、全体の共有知にする仕掛けが必要。
保健体育科	教科指導力の向上	授業見学の強化	実技力がしっかりと身につけているか	○	実技力が身につけていた
芸術科	①授業力の向上 ②成績評価方法の確立	①授業見学、情報共有の強化 タブレット機器の活用を含むコロナ対策の検討 ②他の実技科目との整合性を考え、出席停止生徒や不登校生徒などに対する評価方法を検討	①実技の指導力が高まっているか ②各教科との情報共有	①○ ②△	①生徒は授業を楽しんでいた ②継続中
情報科 技術科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①授業見学の強化 ②教材の改善・打合せの充実	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか	①○ ②○	新学習指導要領の内容に合わせた研修や相互の授業見学を充実させることができた。プログラミングの内容において、教員内での研修や打ち合わせの機会を密にして指導力向上に努めた

家庭科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか	①○ ②○	調理実習が再開できた
宗教科	①学年毎のシラバスの継続性 ②授業内容の充実と授業力の向上 ③学院方針アイデンティティ教育の実施	①教科会議で打ち合わせを密に ②高1の総合(アンデラタイムI)で1～2コマ程度行う ③道德の教科化への対応	他校事例などの情報収集や教科会議での振り返り。教務部との調整。	①△ ②○ ③○	①チャレン以外すべて非常勤のため教科会議が開けていない ②行えた ③中高各学年のシラバスに道德の項目との関連性を反映させた

X. その他	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
職員会議	(1)会議の円滑化・時間短縮 (2)活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	○	今年度より対面式の会議に戻した。特に重大な審議事項はなかった。情報共有は十分で、開始、終了時間も適正であった
運営委員会	(1)会議の円滑化・時間短縮 (2)現場の状況を把握し共有する	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	○	議論すべきものは議論し、わかりやすい形で職員会議に提案できた。時間についても適正に運営できた
M1プロジェクト	①各学年の模試などの学力推移の情報共有 ②2023年度よりスタートするS選抜コースの具体的な取り組みを検討する	①模擬試験の結果が出次第実施し、コース別、教科別で得意分野、苦手分野を把握 ②苦手分野の克服に関して情報交換	①一人当たりの平均残業時間、対前年度(2021年度)比マイナス5% ②計画通りの実行及び、突発的な施設設備改修への対応。A館等外壁改修の施工時期等の確定 ③予算定員の確保	○	S選抜コースを設置することができた
判定会議	(1)会議の円滑化・時間短縮 (2)活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	○	進級判定に改善の余地はあるものの、生徒支援検討会議を経て、ある程度改善点は整理できた
事務室	①業務改善および計画通りの会計業務運営 ②施設・設備保全計画の立案 ③効果的な生徒募集広報の実行	①業務進行の可視化と業務内容の見直し ②校内全体の施設改修計画と合わせて、A館外壁改修の施工時期等の調整。中期保全計画の立案 ③効果的な広報戦略を立案・実行、中高ともに志願者増、予算定員の確保	①一人当たりの平均残業時間、対前年度(2021年度)比マイナス5% ②計画通りの実行及び、突発的な施設設備改修への対応。A館等外壁改修の施工時期等の確定 ③予算定員の確保	①○ ②○ ③○	①全体では達成。繁忙期の体制を、人員も含め整えれば、更なる見直しも ②計画通りの実行、突発的な改修については、概ね、目標通り実施できた。ただし、A館等外壁改修の施工時期については検討は進んでいるが、確定には至らなかった ③定員充足
保健室	(1)感染症対策 (2)外科対応における情報共有の徹底 (3)自尊心の向上	(1)生徒自ら予防対策が実践できるよう指導する。また行事における対策の徹底 (2)校内、保護者との連絡共有 (3)来室時の対応や保健委員会活動の充実	校内感染が抑制できたか 情報共有に不備がなかったか 委員会活動は充実していたか	(1)○ (2)○ (3)○	継続して丁寧な対応を心がけていく
図書館	(1)感染症対策 (2)図書館利用と読書の推進 (3)図書館登校生徒への対応の充実 (4)将来の蔵書管理PC更新計画	(1)安全に図書館利用をしてもらえるように、大阪高校図書館研究会所属他館との情報共有もしつつ、コロナ対応の工夫を続ける (2)図書館や図書館の資料を利用した授業を推進する (3)図書館登校生徒に適切なケアを行い、必要な情報をスタッフと共有する (4)将来の図書館蔵書管理PCのあり方を検討する	(1)生徒に安全に利用してもらえたか (2)過去の取り組みとの比較 (3)生徒の思いを大切にしつつ、精神的な安定と、教室復帰を目標とする (4)蔵書データ等のクラウド保管の可能性や生徒が使用している端末との連携等の可能性などを研究する	(1)○ (2)○ (3)○ (4)○	各種課題に、継続して取り組んでいきたい
同窓会	中・高教員の会費徴収率の向上	該当教員にたいする声かけ	「桃溪」配布時に実施	△	もう少し教員の積極的な参加を求めたい
PTA	コロナに対応した安全な活動を心がける	PTA活動の準備内容等の情報を担当教員、職員、PTA役員保護者などで共有する。特に、社内掲示板等を活用してPTA活動の情報を教職員全員で共有する。昨年度に引き続いて、コロナが蔓延する状況下における活動の在り方を保護者役員の皆様と共に検討する	PTA担当教職員、保護者役員の皆様による振り返り	○	コロナによる制約がある中でも、保護者の皆様には積極的に関わっていただきました